

R6年度 事業名	さばえ図書館友の会共催事業
R5年度 事業名	さばえ図書館友の会共催事業

総合戦略 体系	241	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	市民主役で絆を強め、特色を高めるまちづくり	市民主役の推進
------------	-----	--------------------------------	-----------------------	---------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	2005	終了年度	9999
	目的	新たな学びへの扉を開くことを通じて、市民の教養が高まることに資する。				
	概要	文化の館ロビーにおいて、様々な分野で活動している人の話を聞き、参加者も含めた語らいの場を提供する。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容		
	現在	市直営				

	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	開催回数(ライブラリーコンサート含む)		回	目標値	14	10	3	3	3
				実績値	10	10	3	4	
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	年間参加人数(ライブラリーカフェコンサート含む)		人	目標値	500	385	140	140	160
				実績値	346	533	172	162	
	計算 根拠	年間参加人数	達成率	69.2	138.4	122.9	115.7		
			実数値						
				ランク	C	A	A		
	前年度 ランク B、Cの 理由								

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	112	82	82	62	71		事業タイ	単独事業
	決算額	15	38	48	62	20		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	201	図書館管理運営費	100,020	71
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	71

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1				
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	0

事業要員	正規職員	0.05
	会計年度職員	0.2
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ			
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ			
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み) ☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み			
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある			
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある			
合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定
11	0点～8点	事務改善または 廃止・休止	維持または事務改善
	9点～16点	維持または 事務改善	

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している) ☒ 節減できている ☐ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している) ☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している) ☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない) ☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない) ☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない) ☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	ライブラリーカフェは、市民から知的好奇心を得る場として好評を得ているので、福井県立大学との連携等による不定期開催の講演会を実施する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	カフェは2回 48名の参加があった。コンサートは1回開催し124名の参加があった。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	新型コロナウイルス対策のためR3年度以降密にならないよう会場を喫茶室から1階ロビーや2階ロビーに変更して開催している。R4年12月開催の第200回をもって毎月開催を休止した。R5年度は2回開催、コンサート1回を開催した。R6年度は年2回の開催とコンサート1回の開催を計画中。不定期開催による周知方法を考える必要があり、R6年度は友の会の会計報告送付時に、カフェのチラシおよび次々回の開催予定月のお知らせの同封を依頼し、友の会会員に対して周知を図っていく。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	令和5年度にライブラリーカフェの開催を毎月開催から年1～2回開催に変更したので、R7年度も継続して行う。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	映像シアター開催事業
R5年度 事業名	映像シアター開催事業

総合戦略 体系	344	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	すべての人が健康で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	--------------------------------	------------------	-----------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	1995	終了年度	9999
	目的	映像芸術、視聴覚教材に親しんでもらうことを通じて、市民へ娯楽を提供するとともに、文化的教養の向上に資する。				
	概要	毎月1回、名画等の鑑賞会を開催するとともに、子ども向け「こどもシアター」を夏休み・春休み期間などに年2・3回開催する。当館所蔵の映像資料のうち、上映用に著作権処理のされたものを用いる。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容		
	現在	市直営				

D O 実 施	活動指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	上映回数			回	目標値	14	14	14	14	14
					実績値	14	15	15	14	
	成果指標									
	指標名			単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	年間入場者数			人	目標値	780	780	780	900	1000
					実績値	785	871	1260	1290	
	計算 根拠	年間入場者数			達成率	100.6	111.7	161.5	143.3	
					実数値					
				ランク	A	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由										

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	66	66	66	66	66		事業タイプ	単独事業
	決算額	66	66	66	66	66		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	12	202	視聴覚教材充実費	184	66
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	66

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)	
	1					
	2					
	3					
	4					
	5以降					
					合計	0

事業要員	正規職員	0.05
	会計年度職員	0.18
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☐ ない ☒ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	9
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	所蔵する映像を利用し、子どもから高齢者までが、映像を楽しみ親しむことができる場を提供する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	利用者増を目指し、開催日を第3土曜日から第3日曜日に変更したこと、また、参加者数に上限を設けることなく実施したことにより、年間入場者数は大幅に増加し、成果指標を達成することができた。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R5年度は、利用者増を目指し、開催日を第3土曜日から第3日曜日に変更したこと、また、参加者数に上限を設けず、事前申込みもせずに実施したことにより、年間入場者数は大幅に増加した。R6年度も継続して開催していきたい。満席に近い来場者がある日、定員を超えた日のために、開場時間前後は誘導にあたる職員を増やすことも考えていかないとけない状況もある。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	鑑賞者のニーズを把握して満足度を高めるとともに、この事業は広報、ホームページ、館内チラシにて周知をしているが、更に他の施設にポスターを張りPRしていく。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円): 0				
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円): 0				

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	図書充実事業
R5年度 事業名	図書充実事業

総合戦略 体系	344	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	すべての人が健康で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	--------------------------------	------------------	-----------

PLAN計画

部署名	文化の館		開始年度	0	終了年度	9999
目的	蔵書を充実することにより、図書館サービスの向上を図る。					
概要	市民のニーズに沿った質の高い蔵書をめざして、図書資料等の選書、収集、整理、保存を行う。					
法令等 根拠		実施 形態	内容			
現在	市直営					

D O 実 施	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	蔵書数		冊	目標値	380,000	385,000	387,000	390,000	395,000
				実績値	385,457	393,797	400,690	407,535	
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	インターネット予約数		件	目標値	10,000	12,000	10,000	10,000	10,500
				実績値	11,149	9,746	11,280	10,653	
	計算 根拠	予約件数:市民の求める資料をそろえる。	達成率	111.5	81.2	112.8	106.5		
			実数値						
				ランク	A	B	A		
	前年度 ランク B、Cの 理由								

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	14,545	14,545	14,545	14,545	14,545		事業タイプ	単独事業
	決算額	14,545	14,503	14,544	14,545	14,545		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	202	図書購入費	17,056	14,545
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	14,545

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1				
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	0

事業要員	正規職員	0.3
	会計年度職員	4
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ		
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ		
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み		
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある		
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある		
合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定
11	0点～8点	事務改善または 廃止・休止	維持または事務改善
	9点～16点	維持または 事務改善	

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
有効性	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☐ 目標を達成できている ☒ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	市民が求める資料、情報に正確かつ迅速に応えるため、図書および資料等の選書の質を高め、蔵書の充実を図りながら、昨年度同様の形態で実施する。 YA(ヤングアダルト)世代を対象とした図書を集めたコーナーを設け、中高生の利用増を図る。 図書充実に合わせて、雑誌の充実を図るため、R4年4月から始めた雑誌スポンサー制度および雑誌サポーター制度を継続する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	蔵書の充実を図ってきた。新型コロナが落ち着き、来館して直接本を選んで借りる利用者が増えた。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R4年4月から毎週月曜日が休館となり、開館日数が減少したためか、R4年度は前年度と比べ貸出冊数が減少したが、R5年度は増加した。インターネット予約利用も増えてきている。新型コロナ前の利用状況まで回復するよう、蔵書の充実を図り、利用者サービスに努め続ける必要がある。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	図書資料の予約制度の広報、および資料提供の円滑化を図り、住民ニーズを意識した図書を揃えていくことで、予約数の増加を見込む。 また、インターネット予約の利用登録のデジタル化をR6.12月に開始したことにより、より一層のサービス向上を図る。 YA(ヤングアダルト)世代を対象とした図書・雑誌を集めたコーナーを設けたことで、中高生の利用増を図っていく。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	こどもの読書活動支援(学校図書館支援センター)事業
R5年度 事業名	こどもの読書活動支援(学校図書館支援センター)事業

総合戦略 体系	334	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	子どもがいいきいと過ごすまち	学校図書館の充実
------------	-----	--------------------------------	----------------	----------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	2005	終了年度	9999
	目的	未来を担う子どもたちの心を培うため、乳幼児から児童生徒までの読書活動を支援し、情操を豊かにするとともに考える力の向上に寄与する。				
	概要	0歳児から対象年齢別に子どもの読書支援イベントを実施し、本に親しむ環境づくりを図る。「学校図書館支援センター」を核として、学校、家庭、地域と連携協働を進め、ボランティアの育成に努める。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容		
	現在	市直営				

活動指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
こどもの読書支援イベント年間開催回数(館内イベントのみ対象)		回	目標値	100	90	90	90	90
			実績値	64	90	99	98	
成果指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
こどもの読書支援イベント年間参加者数(館内イベントのみ対象)		人	目標値	1,420	1,300	1,300	1,300	1,300
			実績値	1,028	1,363	1,591	1,442	
計算根拠	事業への参加者累計		達成率	72.4	104.8	122.4	110.9	
			実数値					
			ランク	C	A	A		
前年度ランクB、Cの理由								

事業費

【単位：千円】

区分	2020	2021	2022	2023	2024
予算額	2,246	2,021	1,892	1,956	2,240
決算額	2,066	1,947	1,853	1,956	2,197

会計	一般会計
事業タイプ	単独事業
経費区分	物件費

歳出予算

No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
1	10	5	10	203	こどもの読書支援事業費	2,272	2,240
2							
3							
4							
5以降							
合計							2,240

補助金等

No	R6年度補助金等名称	金額(千円)
1	本との素敵な出会い参加料	53
2		
3		
4		
5以降		
合計		53

事業要員	正規職員	0.5
	会計年度職員	3.5
	※所要時間	0

CHECK 評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	10
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☒ いる ☐ いない
成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☐ 目標を達成できている ☒ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度

R6方向性⇒

維持

取組内容

こどもの読書支援事業は、市民への公的サービスであり、豊かな子どもの心を培うものとして重要な事業であるため、昨年度同様の形態で実施する。本との素敵な出会い事業については、バス利用参加園児一人当たり100円を徴収し、歳入とする。中高生世代の読書意欲を喚起するため、世代に向けた資料を集めたコーナーを設置する。子ども読書活動推進会議事務を行う。

来年度へ向けて

R5年度の実績

「第3次鯖江市子ども読書活動推進計画」(R4年3月策定)にも掲げていた「ジュニア司書養成講座」を鯖江市図書館で開催し、ジュニア司書14名を認定した。屋外(交流広場)でのおはなし会と工作会を開催することで、館内行事のPRをすることもできた。新型コロナによる中止もなく各種行事を開催することができた。

R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題

「えほんとよちよち1・2・3」についてR5年度は開始時間を午前中に変更し、参加者増を図った。R6年度も午前中開催としているが、前年同期と比べて参加者は少ないので周知が必要である。YA(ヤングアダルト)世代を対象とした図書・雑誌を集めたコーナーを設置したので、展示を工夫し、活用してもらえるようにしたい。

実績と課題を踏まえたR7年度の変更点

「えほんとよちよち1・2・3」はR5年度から開始時間を変更し、参加者増がみられたので、R7年度も継続実施していく。本との素敵な出会い事業については受益者負担としてバス利用参加園児1人当たり100円を継続徴収する。YA(ヤングアダルト)世代を対象とした図書・雑誌を集めたコーナーを設けることで、中高生の利用増を図っていく。

R7方向性⇒

維持

CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由

【提案型市民主役事業実施】

年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名

市民主役事業にかかる額(単位千円): 0

R7年度事業名

市民主役事業にかかる額(単位千円): 0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	読書手帳普及事業
R5年度 事業名	読書手帳普及事業

総合戦略 体系	344	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	すべての人が健康で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	--------------------------------	------------------	-----------

PLAN
計画

部署名	文化の館		開始年度	2014	終了年度	9999
目的	読書手帳の発行・普及により、図書館から借りた本の履歴(読書歴)の管理を利用者自らが行うことが可能となり、「一度読んだ本を再度借りてしまうことが避けられる」「以前読んだ本を再度借りたいときなどにスムーズに手続きできる」など利用者の利便性が向上する。また、読んだ本の履歴が目に見えて増えていくことや、読んだ本の簡単な感想を書き込むことなどで、読書の楽しみが増し、読書活動推進へとつなげることができる。					
概要	文化の館において、読書手帳を発行し、図書館利用者が読書履歴を自分で管理することを可能にする。記念手帳に、シールラベルを貼る形式にする。 H26.10.27～発行開始					
法令等根拠			実施形態	内容		
現在	市直営					

活動指標

指標名	単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
読書手帳の配布冊数(累計) ※～2021年度	冊	目標値	3,500				
		実績値	3,518				
読書手帳のPR ※2022年度～	回	目標値		3	3	3	3
		実績値		3	3	3	

成果指標

指標名	単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
シールタイプロール紙の使用量 ※～2021年度	巻	目標値	20				
		実績値	16				
計算 根拠	ロール紙の使用量で、貸出履歴の出力冊数の把握ができる。(ロール紙は1巻につき2300冊分の貸出履歴が印字可能。)	達成率	80				
		実数値					
読書手帳の配布冊数(新規) ※2022年度～	冊	目標値		800	800	800	800
		実績値		840	802	807	
計算 根拠		達成率		105	100.3	100.8	
		実数値					
		ランク	B	A	A		
前年度 ランク B、Cの 理由							

D

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	29	29	29	32	32		事業タイプ	単独事業
	決算額	6	29	29	32	32		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	201	図書館管理運営費	100,020	32
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	32

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)
	1	読書手帳売上			20
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	20

事業要員	正規職員	0.17
	会計年度職員	0.17
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ			
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ			
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み) ☒ 増加する見込み ☐ 横ばい ☐ 減少する見込み			
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある			
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある			
合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定
11	0点～8点	事務改善または 廃止・休止	維持または事務改善
	9点～16点	維持または 事務改善	

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している) ☒ 節減できている ☐ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している) ☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している) ☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない) ☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない) ☒ いる ☐ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない) ☐ 目標を達成できている ☒ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	利用者自らが読書履歴を楽しみながら管理できるため、読書活動推進のひとつとして、昨年度同様の形態で実施するとともに、使い方を具体的に示しPRを行う。 本との素敵な出会い事業参加者に読書手帳(ページ数を少なくした特製手帳)をプレゼントし、利用促進に努める。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	読書履歴を楽しみながら管理するために、読書手帳を入手されている。 本との素敵な出会い事業参加者に特製の読書手帳をプレゼントし、保護者への周知に努めた。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R5年度は「本との素敵な出会い事業」で読書手帳のPRを掲載した特製の読書手帳を配布し、保護者への周知に努めた。後日親子で来館してシール印刷利用の手続をする姿が見られた。 R6年度も「本との素敵な出会い事業」で読書手帳のPRを掲載した特製の読書手帳を配布し、保護者への周知に努めている。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	広報さばえ、ホームページ等で更なるPRを行う。また、読書週間に合わせ再度キャンペーンを実施し、利用者の拡大を図る。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R6年度 事業名	「えきライブラリー」運営事業
R5年度 事業名	「えきライブラリー」運営事業

総合戦略 体系	241	『市民主役』で、さばえる！ひとが集い、挑戦できるまちをつくる	市民主役で絆を強め、特色を高めるまちづくり	市民主役の推進
------------	-----	--------------------------------	-----------------------	---------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	2014	終了年度	9999
	目的	ハピラインふくい鯖江駅利用者の利便性向上による乗降客の増加策および駅前活性化施策の一環として、鯖江市が長期間空きスペースとなっていたハピラインふくい(旧JR)鯖江駅2階を整備・貸出し、このスペースを活用した市民協働による事業を展開する。				
	概要	鯖江市がハピラインふくい鯖江駅2階スペースを整備活用する市民協働による事業において、図書の貸出を行うための図書購入や情報検索・発信のためパソコンを配置する。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容	図書の選書・団体貸出：市直営 運営：民間委託等	
	現在	その他				

D O 実 施	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	「えきライブラリー」への配本冊数		冊	目標値	1,200	1,200	1,200	1,200	1,100
				実績値	1,150	1,110	1060	1060	
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	返却冊数		冊	目標値	700	500	500	500	400
				実績値	505	659	541	352	
	計算 根拠	「えきライブラリー」への本の返却冊数		達成率	72.1	131.8	108.2	70.4	
				実数値					
			ランク	C	A	A			
前年度 ランク B、Cの 理由									

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	55	57	56	76	55		事業タイ	単独事業
	決算額	55	57	56	76	55		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	202	図書購入費	17,056	55
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	55

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)	
	1					
	2					
	3					
	4					
	5以降					
					合計	0

事業要員	正規職員	0.13
	会計年度職員	0.26
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	9
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☐ 目標を達成できている ☒ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	運営事業者の都合により返却ポストの利用可能時間は、通勤通学時間帯とは重ならないため利用しにくい面もあるが、ハビラインふくい鯖江駅前のにぎわい創出と、ハビラインふくい利用客や周辺住民の利便性を図るため、昨年度同様の形態で実施する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	えきライブラリーtetoteはR3年4月から日曜日定休を始めたため、利用日数が縮小されたが、新型コロナによる飲食店の利用控えは落ち着きつつあり、図書貸出・返却の利用も増加した。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R3年度はJR駅の利用者数の減少をうけて、えきライブラリーtetoteの定休日が2日に増えた。図書館側の都合で運営日数・時間を延ばすことは困難である。R6年3月の北陸新幹線福井開業によりJRからハビラインふくいに変わったのを受けて、鯖江駅の乗降客数の推移がえきライブラリー利用にも影響があると予想される。3ヶ月毎に職員が図書館から本を持参し、tetoteの書棚の中の本と入替し、書棚の中身の更新を図っている。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	えきライブラリーへの配本内容を見直し、えきライブラリーに特化した蔵書構成とするなど、来訪者に向けたアプローチをする。また、7月に予定される1階への移転後も、利用者の傾向を見極めそのニーズに合った配本となるよう努める。
	R7方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R6年度 事業名	図書館情報オープンデータ化事業
R5年度 事業名	図書館情報オープンデータ化事業

総合戦略 体系	412	『住みたいまち』で、さばえる！安心して 快適で魅力的なまちをつくる	ITのまちさばえの推進	オープンデータ推進
------------	-----	--------------------------------------	-------------	-----------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	2015	終了年度	9999
	目的	図書館マップ「配架図」をオープンデータ化することにより、図書館内外から自分の探している本がどの書棚にあるかを知ることができる。iPhone等スマートフォンの位置情報とあわせることで本探しが容易になるなど利用者の利便性が向上させる。平成28年1月～さばとマップ稼働。				
	概要	図書館書架にiBeaconを設置し、書架の位置情報を取得する。書架に並んだ本の分類番号と結びつけたデータを作成・公開する。				
	法令等 根拠		実施 形態	内 容		
	現在	市直営				

活動指標

指標名	単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
アプリ納入業者「株カーリル」との打合せ(～2021年度)	回	目標値	1				
		実績値	1				
さばとマップのPR回数	回	目標値		3	3	3	3
		実績値		2	3	3	

成果指標

指標名	単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
アプリ「さばとマップ」の登録者数(新規)(～2021年度)	人	目標値	100				
		実績値	-				
計算根拠2021年度は、アプリ作成業者がアプリ登録者数の収集を実施しなくなったため、確認できなくなった。		達成率	-				
		実数値					
アンケートによる満足度調査(満足度率)(2022年度～)	%	目標値		80	80	80	80
		実績値		87.5	100	100	
計算根拠満足した人/アンケート総数×100		達成率		109.4	125	125	
		実数値		7/8	1/1	3/3	
		ランク	-	A	A		

前年度
ランク
B、Cの
理由

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	66	66	66	66	66		事業タイプ	単独事業
	決算額	66	66	66	66	66		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	201	図書館管理運営費	100,020	66
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	66

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1				
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	0

事業要員	正規職員	0.09
	会計年度職員	0
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	9
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
有効性	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☐ 目標を達成できている ☒ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	現在、三谷コンピュータの開発したアプリ鯖図バスも運用(令和元年12月開始)している。鯖図バスの中には、さばとマップにつながるボタンがあるが、利用者には分かりにくいことから、より使いやすくなるような改善を検討する。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	R5年度は担当者同士がメールで連絡を取った。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R5年度は事業者が来館しての打合せができないため、メールで連絡を取った。Zoom接続のテレビ会議等での打合せを設定する。アプリ「さばとマップ」の登録者数(新規)の統計が収集できなくなったため、R4年度からはアンケートによる満足度調査を行い成果指標とした。「鯖図バス」に比べ「さばとマップ」が知られていないので更なる周知が必要。アンケートも回収数を増やす必要がある。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	引き続き、図書館の利便性向上を図るため、「さばとマップ」「さばサーチ」「鯖図バス」の利用促進を行う。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度 事業名	読書困難者支援事業
R5年度 事業名	読書困難者支援事業

総合戦略 体系	344	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	すべての人が健康で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	--------------------------------	------------------	-----------

PLAN
計画

部署名	文化の館		開始年度	2015	終了年度	9999
目的	これまでの障害者サービスで提供してきた資料は「点字（訳）図書」「録音（テープ・CD）図書」「大活字本」などであるが、障害特性に合わせた資料やサービス方法の開拓・活用が求められている。2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称：障害者差別解消法）」が施行し、図書館としても拡大読書器などを整備することで、視覚障害者などの読書困難者にもバリアなく読書を楽しんでもらうことを目指す。					
概要	拡大文字・白黒反転などに対応した拡大読書器を設置。また「サビエ（視覚障害者総合情報ネットワークシステムの略称）」を利用することで点字・読み上げ図書データの提供を行っていく。					
法令等根拠	障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律		実施形態	内容		
現在	市直営					

D

活動指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
啓発チラシの配布枚数(視覚障害者)(～2021年度)		枚	目標値	100				
			実績値	0				
読書困難者(視覚障がい者)支援事業のPR回数(2022年度～)		回	目標値		3	3	3	3
			実績値		2	2	2	
成果指標								
指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
視覚障害者への視聴覚資料郵送回数(～2021年度)		回	目標値	15				
			実績値	5				
計算 根拠	1月あたり1.5回×12月		達成率	33.3				
			実数値					
視覚障がい者への視聴覚資料郵送対応率		%	目標値		100	100	100	100
			実績値		100	100	100	
計算 根拠	対応した件数/依頼件数×100		達成率		100	100	100	
			実数値		3/3	2/2	17/17	
			ランク	C	A	A		
前年度 ランク B、Cの 理由								

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額	40	40	40	40	40		事業タイプ	単独事業
	決算額	40	40	40	40	40		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	201	図書館管理運営費	100,020	40
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	40

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)	
	1					
	2					
	3					
	4					
	5以降					
					合計	0

事業要員	正規職員	0.01
	会計年度職員	0.05
	※所要時間	0

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☐ ない ☒ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	9
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

効率性	改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
	デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
	業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☐ 向上している ☒ 横ばい ☐ 低下している
有効性	市民団体や事業者に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
	成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☐ 目標を達成できている ☒ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	従来から提供している点字図書、録音図書、大活字本に加え、拡大読書器利用やサビエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)を通じての図書利用サービスを昨年度同様の形態で実施し、読書困難者の読書支援を行っていく。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	点字図書、録音図書、大活字本の充実に努めた。拡大読書器の利用はある。当館を経由してのサビエ利用の申し込みが1回あり、データのダウンロード、CD-Rへの焼付、再生機器での確認、利用者への送付を行った。聴覚障がい者友の会(鯖江)の代表者との懇談をし、手話の本の充実にも努めた。
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	点字図書、録音図書、大活字本の充実に努めている。拡大読書器の利用はある。当館を経由してのサビエ利用の申し込みが1回あり対応したが、データ再生ができなかったようである。利用者が機器を買替えたそうで、データ形式の不一致か操作が間違っているかは不明。当館に新しい機種種の機器を購入するか、利用者の家にあるという元の機器を探していただくか、個人利用をお勧めすることを考えたい。(他の利用者は個人利用で自身の機器に直接ダウンロードして利用されているようです)
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	点字図書、録音図書、大活字本の充実に努める。利用者の申し込みそうな資料の充実に努め、依頼に対応できるようにする。また、サビエ図書館の個人利用を推し進めるなど視覚障がい者のニーズに合わせたサービスを提供する。より多くの障がい者に周知されるようPRを強化する。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択	不可能	不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況	未実施	未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R6年度 事業名	ジュニア司書養成講座開催事業
R5年度 事業名	ジュニア司書養成講座開催事業

総合戦略 体系	344	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	すべての人が健康で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	--------------------------------	------------------	-----------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	2022	終了年度	9999
	目的	読書習慣がない児童が増えている中、児童をジュニア司書として認定し、学校内で読書活動のリーダーになってもらうことで、図書館に親しみをもつ児童を増やしていく。				
	概要	小学校4～6年生を対象に図書館の機能についての理解を深める講座を開講し、必須科目（図書館とは、本の分類、レファレンス）を含む、10コマ以上の受講で「福井県ジュニア司書」と認定する。（県立図書館での開催と併せて、当講座を実施し、県内全体の活動につなげていく。）				
	法令等 根拠	図書館法	実施 形態	内容	鯖江市図書館の施設と資料を用い、鯖江市図書館について理解を深めてもらう講座の企画・運営。県生涯学習・文化財課および県立図書館との連携も不可欠。	
	現在	市直営				

	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	ジュニア司書養成講座の開催		回	目標値		1	1	1	1
				実績値		1	1	1	
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	ジュニア司書認定者数(新規認定者)		人	目標値		8	15	15	15
				実績値		15	14	12	
	計算 根拠			達成率		187.5	93.3	80.0	
				実数値					
				ランク		A	B		
	前年度 ランク B、Cの 理由	申込者のうち1名が、開催前日に保護者と妹の新型コロナ感染が分かり不参加となったため。							

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額			302	27	12		事業タイ	単独事業
	決算額			302	24	11		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	203	こどもの読書支援事業費	2,272	12
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	12

補助金等	No	R6年度補助金等名称			金額(千円)	
	1					
	2					
	3					
	4					
	5以降					
					合計	0

事業要員	正規職員	0.15
	会計年度職員	0.45
	※所要時間	

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ)	☐ はい ☒ いいえ
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ)	☒ はい ☐ いいえ
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み)	☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある)	☒ ない ☐ ある
合計 点数	12
点数区分	0点～8点 9点～16点
次年度方向性の 目安	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善
判定	維持または事務改善

改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している)	☒ 節減できている ☐ 横ばい ☐ 増加している
デジタル技術を活用するなど業務効率は向上しているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
業務プロセス(進め方・手続き)の向上を図っているのか。 (2向上している・1横ばい・0低下している)	☒ 向上している ☐ 横ばい ☐ 低下している
市民団体や事業者等に業務委託しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない)	☐ いる ☒ いない
成果は目標を達成できているか。 (2目標を達成できている・1進展している・0目標に向かっていない)	☒ 目標を達成できている ☐ 進展している ☐ 目標に向かっていない

ACTION

今年度	R6方向性⇒	維持
取組内容	R4年度から始めた小学4～6年生を対象とした「ジュニア司書養成講座」を引き続き企画実施する。講座では、1コマ45分程度で、「図書館とは」「本の分類」「レファレンス」等の科目を開講し、指定コマ数以上受講した児童を「ジュニア司書」と認定する。(県立図書館での開催と併せて、当講座を実施し、県内全体の活動につなげていく。)	
来年度へ向けて	R5年度の実績 R4年度に引き続き小学4～6年生を対象とした「ジュニア司書養成講座」を企画実施した。講座では、1コマ45分程度で、「図書館とは」「本の分類」「レファレンス」等の科目を開講し、指定コマ数以上受講した児童を「ジュニア司書」と認定した。講座を開催するにあたり、学校訪問して募集依頼をするなどし、15名の申込があった。残念ながら1名不参加となり、所定の講座数を終了した14名が県ジュニア司書として認定された。ジュニア司書認定者の活動として、本の福袋づくりを企画・開催した。	
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題 初年度のR4年度は県生涯学習文化財課と県立図書館の支援を受け開催することができた。R5年度は全カリキュラムを当館職員で担当することとなった。図書館内での講師のスキルアップが必要。 R6年度も15名定員の募集予定。	
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点 図書館内での講師養成を引き続き行い、スムーズな進行と参加者の満足感の向上を図る。 参加者の確保のため、申込方法の電子化をさらに進める。参加者(保護者)との連絡手段としてメールを活用する。	
	R7方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択		不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況		未実施	未実施	未実施	未実施

取組可能な事業の詳細⇒

R6年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名	
市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

R6年度 事業名	青空おはなし会開催事業
R5年度 事業名	青空おはなし会開催事業

総合戦略 体系	344	『幸福寿命』で、さばえる！育てやすい暮らしやすいまちをつくる	すべての人が健康で生涯青春のまち	生涯学習体制の充実
------------	-----	--------------------------------	------------------	-----------

P L A N 計 画	部署名	文化の館	開始年度	2022	終了年度	9999
	目的	文化の館前交流広場にて青空おはなし会を開催することで、図書館児童行事をPRする。 また、交流広場が図書館と一体的に運営されていることを広く周知する。				
	概要	文化の館前交流広場にて、図書館のこどもの読書支援イベントとして青空おはなし会を年2回以上開催する。				
	法令等 根拠	図書館法	実施 形態	内 容		
	現在	市直営				

	活動指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	こどもの読書支援イベント(屋外イベント)の開催		回	目標値		3	3	2	2
				実績値		2	2	2	
	成果指標								
	指標名		単位	年度	2021	2022	2023	2024	2025
	屋外イベントを2回以上開催		%	目標値		100	100	100	100
				実績値		66.6	66.6	100	
	計算 根拠	開催回数/開催目標回数×100		達成率		66.6	66.6	100	
				実数値		2/3	2/3	2/2	
				ランク			C	C	
	前年度 ランク B、Cの 理由	気候を考慮し、屋外イベントを2回とし、その他イベントは屋内開催としたため。							

DO実施

事業費	区分	2020	2021	2022	2023	2024	タイプ	会計	一般会計
	予算額			98	11	0		事業タイプ	単独事業
	決算額			98	1	0		経費区分	物件費

歳出予算	No	款	項	目	事業	R6年度事業名	予算書額	うち事業額(千円)
	1	10	5	10	203	こどもの読書支援事業費	2,272	0
	2							
	3							
	4							
	5以降							
							合計	0

補助金等	No	R6年度補助金等名称		金額(千円)	
	1				
	2				
	3				
	4				
	5以降				
				合計	0

事業要員	正規職員	0.1
	会計年度職員	0.24
	※所要時間	

CHECK評価

法令等により実施することが義務付けられているか。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ				効率性 改善を行い、コストの削減を図っているのか。(2節減できている・1横ばい・0増加している) ☐ 節減できている ☒ 横ばい ☐ 増加している
行政が実施すべき事業か。 (1はい・0いいえ) ☐ はい ☒ いいえ				
住民等のニーズは増えているか。 (2増加する見込み・1横ばい・0減少する見込み) ☐ 増加する見込み ☒ 横ばい ☐ 減少する見込み				
国・県または民間のサービスと競合している事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある				
事務事業の中で、目的や概要が類似する事務事業があるか。 (1ない・0ある) ☒ ない ☐ ある				
合計 点数	点数区分	次年度方向性の 目安	判定	有効性 財源(補助金等、受益者負担など)を確保しているか。 (1いる・0いない) ☐ いる ☒ いない
9	0点～8点 9点～16点	事務改善または 廃止・休止 維持または 事務改善	維持または事務改善	

ACTION

今年度	R6方向性⇒	事務改善(手段・サービス水準の見直し)
取組内容	文化の館前交流広場にて青空おはなし会と工作会を開催することで、図書館児童行事をPRする。	

来年度へ向けて	R5年度の実績	文化の館前交流広場にておはなし会を開催することで、図書館児童行事をPRした。 5/6「青空おはなし会と紙コップであそぼう!」 8/25夕方「こわ〜いおはなし会」
	R5年度実績とR6年度の経過を踏まえた課題	R5年度の青空おはなし会&工作会は2回企画・実施し、利用者への図書館行事PRをすることができた。 R6年度の青空おはなし会&工作会は1回開催済みで2回目の広報を始める段階である。参加申込はデジタル化をすすめる。 雨・風により絵本の読み聞かせが出来なくなるので、天候が不安定な時は、判断が難しい。
	実績と課題を踏まえたR7年度の変更点	屋外開催のため、梅雨や台風の時期を避けて開催日程を設定する。
	R7方向性⇒	維持
	CHECK(次年度方向性の目安)とR7年度方向性が異なる場合には、その理由	

【提案型市民主役事業実施】					
年度	2021	2022	2023	2024	2025
取組選択		不可能	不可能	不可能	不可能
実施状況		未実施	未実施	未実施	未実施

R6年度事業名		
	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0
R7年度事業名		
	市民主役事業にかかる額(単位千円):	0

取組可能な事業の詳細⇒